



休暇を利用して 地域への理解を深める

ボランティアクラブ」が創設された。人事部に本部を置き、各支店には連絡委員がいる。

「ボランティア情報を本部が提供し、各支店からはこんなボランティアをしましたという報告が入る。県内の災害については、銀行は見舞金を送ったり避難所にタオルを配ったりしますが、支店単位で復旧支援に参加するところもあります。困った時に手を貸したいという純粋な気持ちからのボランティアなんです。銀行にはいろいろな方が見えますから、やさしくしてあげる、力になってあげようという意識が育つのは非常にいいこと。窓口でお客様のために力を尽くすことにつながります」

忙しい銀行業務を抱えながら、地域でボランティアをするには使いやすい休暇が必要だ。誰かが休みを取れば職場はその分大変なのだが、それ以上に大きなものが得られると山浦さんはいう。



「2〜3年に1回は転勤という銀行員ですが、ボランティアで地域に出れば、地域を知り勉強になることが多い。営業活動の情報が入ることもあるんです。地域の方々に当行のよさも自然な形で伝わり、地域における存在感も大きくなってきます。これが銀行経営には一番だと思います。職員には大いに休みを取って地域でボランティアをしてほしいと思っています。私も支店長時代、善光寺周辺のゴミ拾いをしたことがあります。最近ゴミが減ってきたとか、街の変化を直接感じるいい機会だと思っています」

年間20日の有給休暇があるのだが、現状ではなかなか消化されていない。5日連続休暇は全員が年1回は土日を入れて一週間連続で有給休暇を取らなければな

らない制度である。ほかに3日間のミニ連休や記念日休暇などがある。これらは旅行しようとしてボランティアをしようとして過ごし方は自由である。

通常の年次有給休暇以外の有給休暇として「休務」という制度がある。ボランティア活動奨励特別休暇はそれにあたる。年間20日取得できるのだ。裁判員休暇も「休務」扱いとして本年12月に導入されることになっている。

「こういう休暇を利用して社会貢献活動をしてもらうのは、社会生活をしている人の責務なんです。銀行内では見えなかった職員の別の面が発見できたり、コミュニケーションが円滑にもなります。地域のためにと思う気持ちをもつ人が次々に出てきて、いい連鎖が生まれることも期待できます」

今後は休暇の消化率をさらに高め、CSRを着実に果たしながら「日本の真ん中で輝いている銀行」でありたいという。

★八十二銀行★

本店 〒380-8682
長野県長野市岡田178-8
創立 昭和6年8月1日
従業員数 2,964人
(平成19年3月現在)